

第5章 周産期医療対策

【現状と課題】

現 状

- 1 母子保健関係指標の状況
 - 平成24年人口動態調査によると、当圏域の出生数は5,925人、出生率（人口千対）は9.6（県9.1）、合計特殊出生率は1.58（県1.46）、乳児死亡数は11人、乳児死亡率（出生千対）は1.9（県2.1）、新生児死亡数は5人、新生児死亡率（出生千対）は0.8（県0.8）、死産数は113人、死産率（出産千対）は18.7（県20.7）、周産期死亡数は24人、周産期死亡率（出産千対）は4.0（県3.8）、となっています。（表5-1）
 - 医師・歯科医師・薬剤師調査によると、平成24年12月31日現在で主たる診療科を産科・産婦人科とする医療施設従事医師数は29人となっています。出生千人当たりの医師数は、平成22年12月31日現在の5.0から4.8に減少し、県平均9.2と比べるとかなり少ない状況です。
 - 分娩実施件数に対する圏域完結率は、78.8%（県96.5%）、分娩対応可能数に対する圏域完結率は83.8%（県111.2%）となっています。（表5-3）
- 2 正常分娩に対する周産期医療体制
 - 平成24年6月1日現在、産科・産婦人科を標榜している病院は6病院、診療所は11診療所あり、そのうち分娩を取り扱っている病院は4病院、診療所については6診療所となっています。平成22年6月と比べると、分娩を取り扱っている病院が1か所減少しています。（表5-2）
 - 平成24年6月1日時点では、2カ所の病院が医師不足などの理由により、分娩を休止しています。
- 3 ハイリスク分娩に対する周産期医療体制
 - 市立半田病院は地域周産期母子医療センターに指定され、地域の中核病院としての役割を担っています。
また、県内の総合周産期母子医療センター及び地域の主治医との間のネットワークにより、地域において妊娠、出産から新生児に至る高度専門的な医療を効果的に提供しています。
 - 平成28年度に県あいち小児医療センターは、周産期部門を設置してNICU及び先天異常胎児

課 題

- 乳児死亡は、母体の健康状態、養育条件等の影響を強く受けるため、地域全体における妊娠中から出産後まで継続した母子支援体制の整備を推進していく必要があります。
- 産科医・産婦人科医の確保が望まれます。
- 助産師の確保が望まれます。
- 産科の医療機関の確保が望まれます。

の出産に対応する産科を整備し、新生児の最重篤患者に対し医療を提供します。

- 平成24年度、ハイリスクの母体搬送にかかる圏域完結率は22.6%、新生児搬送にかかる圏域完結率は23.3%となっています。(表5-4)

4 愛知県母子保健推進事業による医療機関と保健機関の連携体制づくり

- 平成18年度より愛知県周産期医療協議会等で作成した連絡票を活用して、周産期母子医療センター及び産科医療機関と保健、福祉、教育機関の連携を図り、問題を抱えた母子に対し早期に支援することができるシステムの確立を目指し、会議や研修を実施しています。

- 周産期母子医療センター及び産科医療機関と保健、福祉、教育機関の連携により、妊娠中から出産後まで継続した支援をすることで、マタニティーブルーや虐待の早期発見・対応ができる地域全体の支援体制整備を図っていく必要があります。

【今後の方策】

- 周産期ネットワークの充実強化を図り、母体・胎児・新生児の総合的な管理と、安心して子どもを生み育てる環境の整備を進めます。
- 医療機関と保健、福祉、教育機関の連携を図り、問題をかかえる母子の早期支援を充実します。

(参考図表)

表5-1 母子保健関係指標

	20年	21年	22年	23年	24年
出生数	5,938 (71,029)	5,844 (69,786)	6,059 (69,872)	5,948 (68,973)	5,925 (67,913)
出生率	9.7 (9.9)	9.5 (9.7)	9.9 (9.6)	9.6 (9.5)	9.6 (9.1)
合計特殊出生率	1.46 (1.43)	1.47 (1.43)	1.57 (1.52)	1.56 (1.46)	1.58 (1.46)
乳児死亡率	2.7 (2.9)	1.2 (2.6)	2.5 (2.6)	2.2 (2.6)	1.9 (2.1)
新生児死亡率	1.0 (1.2)	0.3 (1.1)	1.5 (1.1)	1.0 (1.1)	0.8 (0.8)
死産率	24.3 (22.2)	19.3 (21.3)	17.7 (19.7)	19.1 (19.5)	18.7 (20.7)
周産期死亡率	4.5 (4.4)	4.9 (4.4)	4.1 (4.0)	3.4 (3.8)	4.0 (3.8)

資料：人口動態統計 () 内は愛知県の数または率

出生率＝出生数／人口×1,000

合計特殊出生率＝母の年齢別出生数／年齢別女性人口 (15歳～49歳の合計)

乳児死亡率＝乳児死亡数／出生数×1,000

新生児死亡率＝新生児死亡数／出生数×1,000

死産率＝死産数(自然＋人工)／出産数(出生数＋死産数)×1,000

周産期死亡率＝周産期死亡数(妊娠満22週以降の死産＋早期新生児死亡)／出産数(出生数＋妊娠満22週以後の死産数)×1,000

表5-2 産科・産婦人科医師数等

	病院	診療所	産科・産婦人科 医師数	出生数	出生千人あたり の医師数
知多半島圏域	6 (4)	9 (6)	29	5,925	4.8 (5.0)
愛知県			627	67,913	9.2 (8.5)

産科・産婦人科標榜の病院・診療所数 () 内は分娩を取り扱っている医療機関数
(平成25年6月1日現在 健康福祉部調査)

医師数：医師・歯科医師・薬剤師調査(平成24年12月31日)

主たる診療科が産科・産婦人科の医療施設従事医師数

出生数：平成24年人口動態統計(確定数)の概況(厚生労働省)

出生千人あたりの医師数：() 内は平成22年12月31日現在

表5-3 分娩対応可能数に対する分娩実施件数 (単位：件)

	出生数	分娩実施件数			分娩対応可能数		
		総数	病院	圏域 完結率 (%)	総数	病院	圏域 完結率 (%)
			診療所			診療所	
知多半島 医療圏	5,925	4,670	1,780	78.8	4,965	1,895	83.8
		2,890	3,070				
愛知県	67,913	65,570	29,017	96.5	75,541	32,099	111.2
		36,553	43,442				

資料：周産期医療に係る実態調査(平成25年6月調査)(愛知県健康福祉部)

出生数：平成24年人口動態統計(確定数)の概況(厚生労働省)

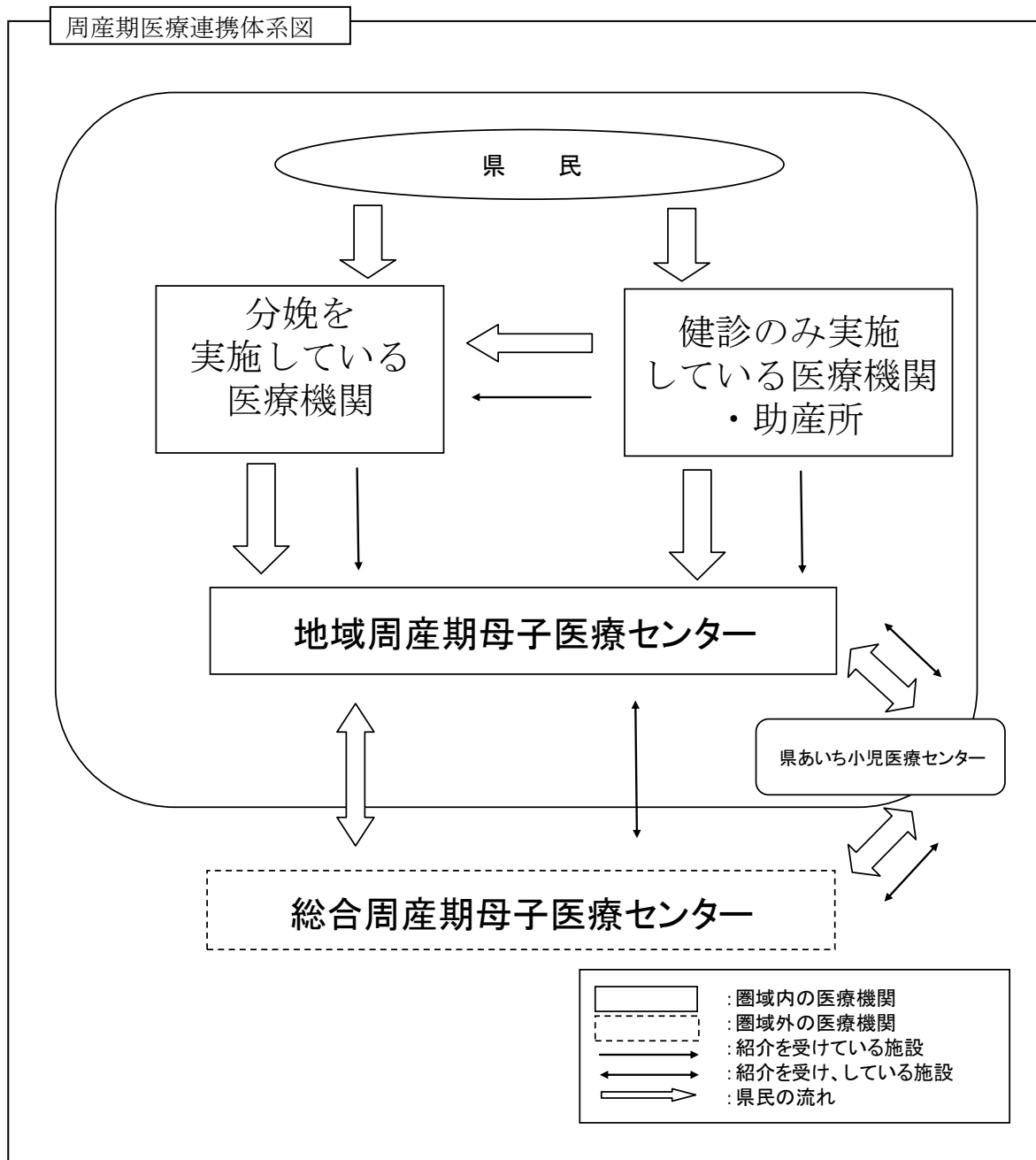
分娩実施件数：平成24年度に分娩を行った件数

分娩対応可能数：平成25年度に分娩対応が可能な件数

表5-4 ハイリスクの母体搬送、新生児搬送にかかる圏域完結率(単位：件)
(平成24年度)

搬送先	母体搬送	新生児搬送
圏域内	26	20
圏域外	89	66
合計	115	86
圏域完結率(%)	22.6	23.3

資料：周産期医療に係る実態調査(平成25年6月調査)(愛知県健康福祉部)



<周産期医療連携体系図の説明>

- 地域周産期母子医療センターでは、ハイリスク分娩等の重篤患者に対し、周産期に係る比較的高度な医療を提供します。
- 総合周産期母子医療センターでは、合併症妊娠（重症妊娠高血圧症候群、切迫早産等）、胎児・新生児異常（超低出生体重児、先天異常児等）等母体又は児におけるリスクの高い妊娠に対する医療、高度な新生児医療等の周産期医療や、産科合併症以外の合併症（脳血管障害、心疾患、敗血症、外傷等）を有する母体への医療など、最重篤患者に対し医療を提供します。
- 専門的な療育相談や小児疾患については、県あいち小児医療センターで受けることができます。
- 県あいち小児医療センターは、平成 28 年度に周産期部門を設置して NICU・GCU を整備し、胎児・新生児の最重篤患者に対し医療を提供します。

※ 具体的な医療機関名は、県計画の別表に記載してあります。